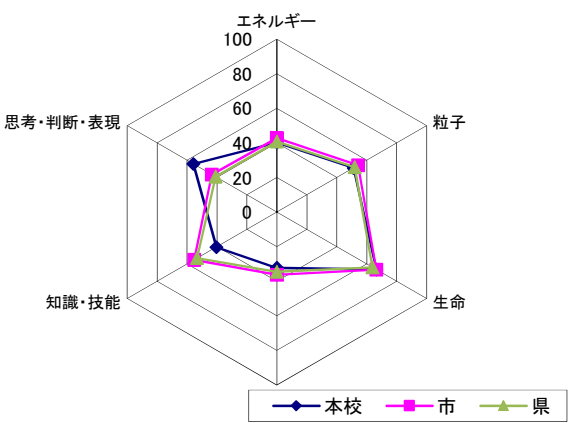


宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	40.3	42.8	40.8
	粒子	51.1	54.2	52.0
	生命	66.3	66.4	63.8
	地球	32.3	36.2	34.5
観点	知識・技能	40.5	55.2	53.3
	思考・判断・表現	55.8	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○光の性質についての問題(光の反射、凸レンズの利用)については、正しく理解できている生徒が多い。実験にも意欲的に参加している生徒が多いことから、実際の問題でも正答率が高いと考えられる。 ●グラフや作図の正答率が全体的に低い傾向にある。	・実験をしたうえで、結果をグラフや表にまとめて規則性を見つける時間を今まで以上に確保する。なぜその結果になったかを多角的にみる時間を多く作ることで、その実験での事象について深く考えることができるようにする。
粒子	平均正答率が、市の平均を3.1p下回っている。 ○物質そのものの性質についてはよく理解できている。また、実験操作や手順についてもよく理解できている。 ●実験結果を利用して計算して解く問題で正答率が低い。	・計算の仕方は分かるものの実験や文章をその式にむすびつけることができていない印象である。演習問題をより多く解くことで、教科書に出てくる計算式がどのように使われるかを関連付けられるような時間を増やしていく。
生命	平均正答率は、市の平均とほぼおなじである。 ○動物の分類や花の種類についての知識は比較的定着している生徒が多い。 ●昆虫類などの無脊椎動物の分類について正しく覚えていない生徒が多い印象である。	・動物の分類の中で無脊椎動物や軟体動物などの特徴に触れる時間を多くつくり、人間と大きく違った生態について考える時間を多く作る必要がある。また、自ら進んで調べ学習をするような時間をつくるようにする。
地球	平均正答率が、市の平均を3.9p下回っている。 ○マグマのねばりけなどの火山の性質については比較的 understanding している生徒が多い。また、化石の特徴や分類についても理解できている生徒が多い。 ●地震に関する計算問題で正答率が低く理解できていない生徒が多い。数値から読み取って問題を解くことができていない。	・グラフから情報をどう読み取るかを授業中に学習する時間を増やす。また、演習問題を多く解いて、計算問題に苦手意識をなくせるようにしていく。